

第7回 鷗川・沙流川減災対策協議会 議事概要

■日時:令和2年6月30日(火)

■開催方法:書面による開催

■参加機関:減災対策協議会構成員

■議事内容

1. 話題提供

- (1)室蘭開発建設部、室蘭地方气象台、室蘭建設管理部からの話題提供について、事務局より構成員に資料2を送付し、意見徴収を行った。
- (2)特段の意見はなかった。

2. 規約の改定について

- (1)事務局より構成員に資料3及び承諾書を送付し、意見徴収を行った。
- (2)各構成員より承諾書を送付いただき、規約の改定について承諾された。

3. 令和元年度に実施した取組のフォローアップについて

- (1)事務局より資料4を構成員に送付し、意見聴取を行った。
- (2)特段の意見はなかった。

4. 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1)事務局より資料6を構成員に事前に送付し、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、避難所におけるコロナ対策等について周知した。
- (2)特段の意見はなかった。

5. 情報提供について

- (1)事務局より資料7を構成員に送付し、意見徴収をおこなった。
- (2)特段の意見はなかった。

6. その他(書面による回答内容)

(事務局)

- ・今後も各機関が実施する減災に関する取組のフォローアップを行っていく予定。
- ・これからも、緊密な連携が図れるよう、引き続きご協力をお願いします。

(室蘭地方气象台)

- ・大雨特別警報の「解除」を「警報への切替」に変えた。合わせて「河川氾濫に関する情報」を室蘭開発建設部と共同発表する(令和2年6月18日13時運用開始)。
- ・新型コロナウイルス感染症対策(以下コロナ対策)として、関係機関によるweb会議を活用した情報共有や打合せを検討すべき。

- ・室蘭地方気象台では、コロナ対策を講じた上で、地域住民に向けた大雨・洪水災害等に係る講演、市町の防災対応をイメージすることができる「気象防災ワークショップ」の実施による地域防災力の向上に係る支援が可能。

(旭川地方気象台)

- ・平時には防災気象情報の利活用を促進する。
- ・緊急時にはJETT(気象庁防災対応支援チーム)の派遣や首長ホットラインにより地域の防災活動を支援していく。

(北海道胆振総合振興局)

- ・ソフト対策として、令和元年度は、関係機関との連携強化等を目的とした「地方本部指揮室」に関する規定の整備及び訓練等を実施。
- ・今年7月に、市町村職員を対象とした、感染症対策に重点をおいた避難所運営訓練を、室蘭市内で実施予定。
- ・河道掘削等のハード対策については、令和元年度に沙流川災害復旧助成事業が完了し、令和2年度は厚真川、入鹿別川、日高門別川等で、引き続き、事業の促進を図る。

(上川総合振興局)

- ・危機管理型水位計については、避難の状況判断のため、水位把握の必要性の高い中小河川に低コストの危機管理型水位計を設置しており、占冠村においては、令和元年度までに設置し、供用を開始している。
- ・簡易型河川巡視カメラについては、住民避難の動機付けとなるよう水位周知河川に設置を行っており、占冠村においては、令和元年度に設置し、供用を開始している。
- ・住民等への周知や訓練等に関する取組については、地元の要望に応じて、関係機関と連携を図りながら引き続き、取り組んでいきたいと考えている。

(むかわ町)

- ・令和元年6月15日に鶴川沙流川合同水防演習を実施し、むかわ町を含む東胆振3町のほか日高町、占冠村、北海道、北海道開発局等の関係機関のほか、住民が水防意識を高めた。このような、総合訓練を定期的実施することで、関係機関の連携のほか、住民への啓発にも繋がる。
- ・今後は、水害タイムラインを活用しさらなる図上訓練等、関係機関が有する情報共有や、実務的な想定での連絡訓練等、万が一に備える必要がある。さらに、一級河川を有する他地域(自治体)との情報共有に向け、本協議会を活用し、協議等を行うことが重要である。

(日高町)

- ・減災について関係機関の連携、情報共有を本協議会で継続的に行われることは重要である。

(平取町)

・逃げ遅れゼロを目指し、関係機関で連携、共有した情報を元に地域防災、自主防災をブラッシュアップする。

(北海道警察)

・令和元年7月25日、日高町と合同による災害警備訓練を沙流川の河川敷に所在する「富川さるがわせせらぎ公園」等において実施。大雨による河川氾濫や土砂崩れを想定した住民の避難誘導や救出救助活動を行い、住民や自治体関係機関との連携強化を図ることができた。

(北海道旅客鉄道株式会社)

・JR北海道といたしましては、これまで同様に 定期的な橋梁点検や橋脚周りの草木の取り除き等を行ってまいります。

以上